

2020/7/20

## 柏の景気情報(令和2年6月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
T E L : 04-7162-3305  
F A X : 04-7162-3323  
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報(令和2年6月分)

○ 調査期間 : 令和2年6月25日 ~ 令和2年7月10日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	20	45.5%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	22	50.0%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年6月の業況についての状況】

6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.5(前月水準▲64.2)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。

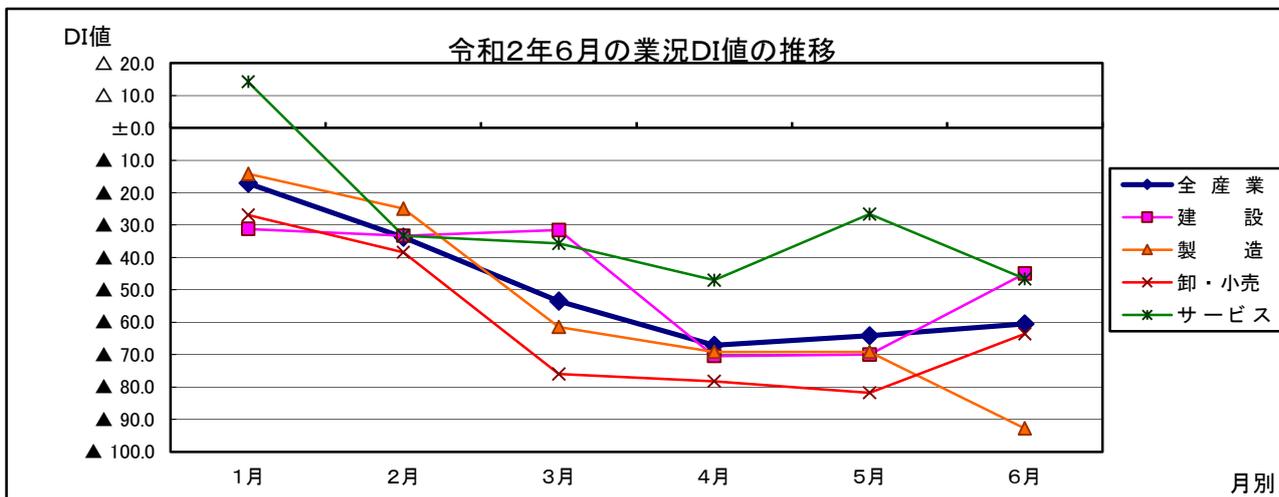
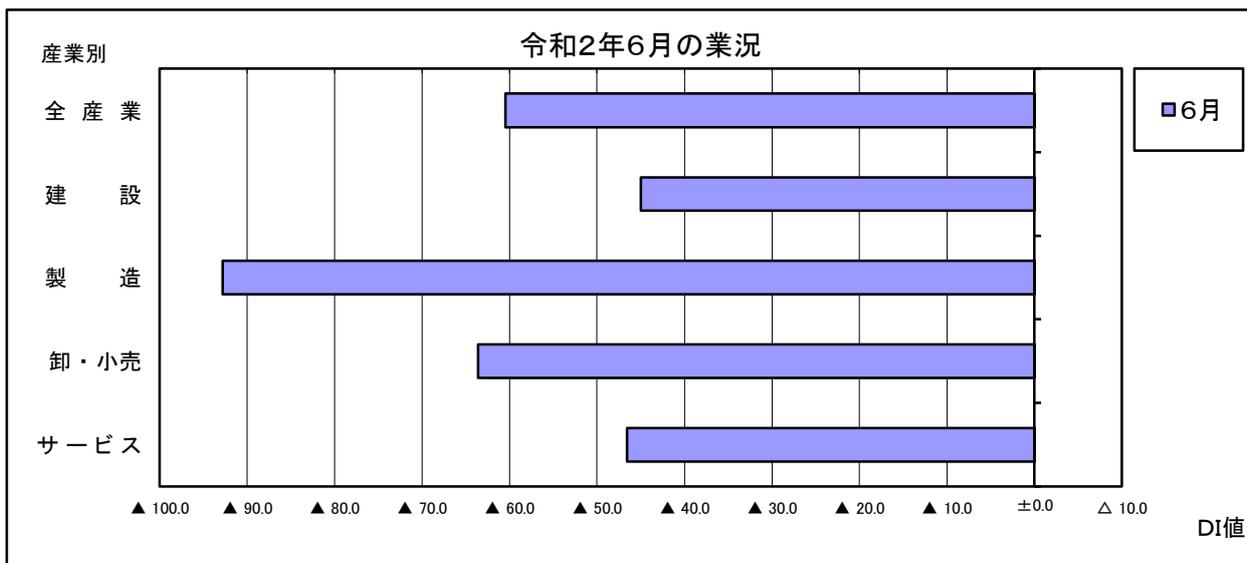
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲45.0(同▲70.0)、卸小売業▲63.6(同▲81.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲92.8(同▲69.2)、サービス業▲46.6(同▲26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42.2(前月水準▲44.2)となり、マイナス幅が2.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲30.0(同▲45.0)、製造業▲50.0(同▲61.5)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲45.4(同▲45.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲46.6(同▲26.6)である。

令和2年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲17.1	▲33.8	▲53.5	▲67.1	▲64.2	▲60.5	▲42.2(▲44.2)
建設	▲31.2	▲33.3	▲31.5	▲70.5	▲70.0	▲45.0	▲30.0(▲45.0)
製造	▲14.2	▲25.0	▲61.5	▲69.2	▲69.2	▲92.8	▲50.0(▲61.5)
卸・小売	▲26.9	▲38.4	▲76.0	▲78.2	▲81.8	▲63.6	▲45.4(▲45.4)
サービス	△14.2	▲33.3	▲35.7	▲47.0	▲26.6	▲46.6	▲46.6(▲26.6)



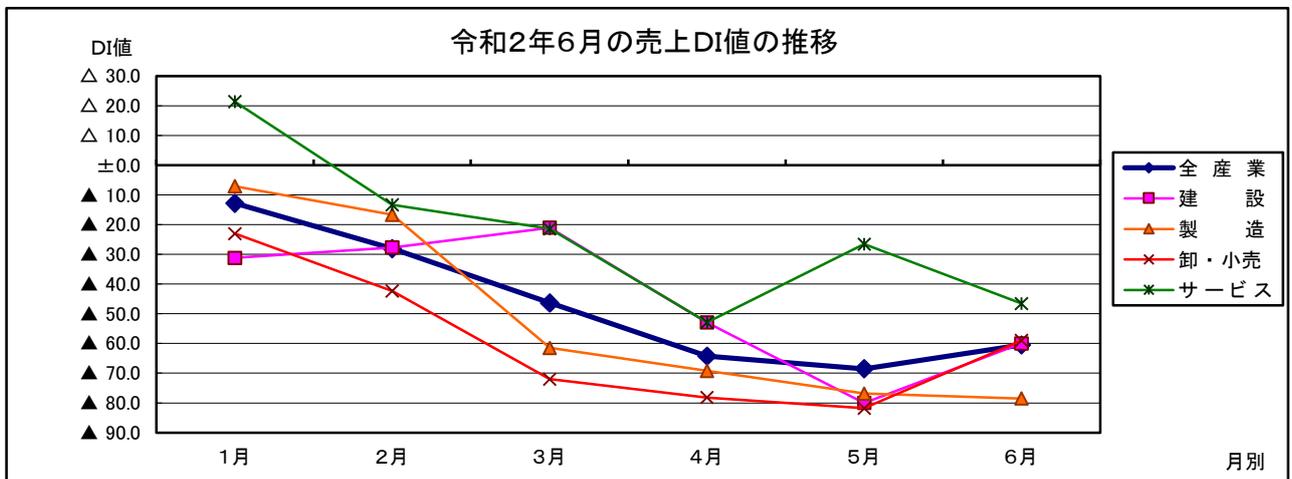
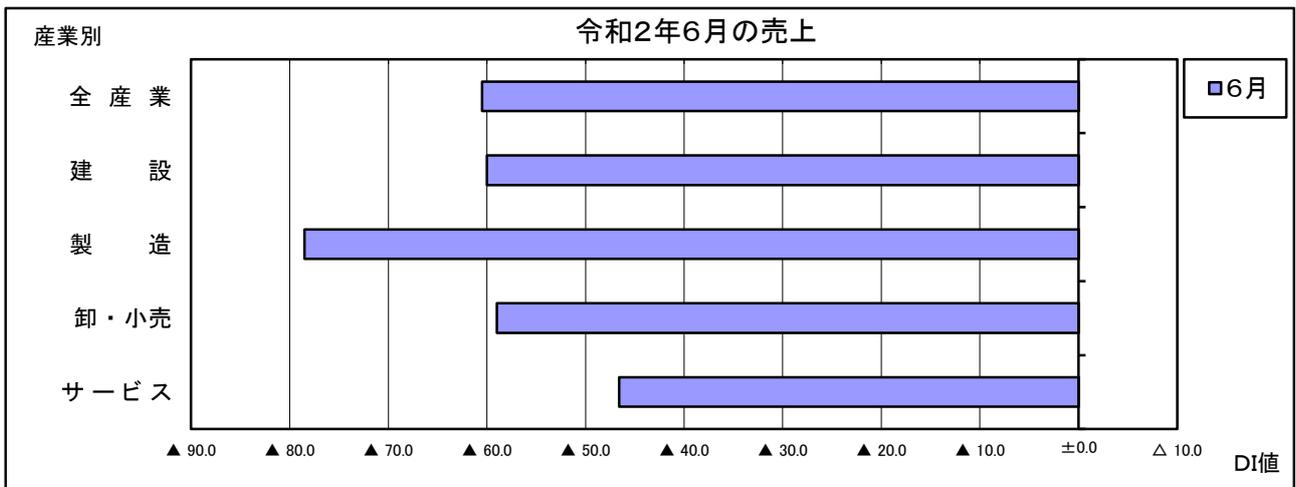
【令和2年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.5(前月水準▲68.5)となり、マイナス幅が8.0ポイント縮小した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59.0(同▲81.8)、建設業▲60.0(同▲80.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲26.6)、製造業▲78.5(同▲76.9)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.8(前月水準▲45.7)となり、マイナス幅が11.9ポイント縮小する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.7(同▲61.5)、建設業▲25.0(同▲50.0)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲45.4(同▲45.4)、サービス業▲26.6(同▲26.6)である。

令和2年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲12.8	▲28.1	▲46.4	▲64.2	▲68.5	▲60.5	▲33.8(▲45.7)
建設	▲31.2	▲27.7	▲21.0	▲52.9	▲80.0	▲60.0	▲25.0(▲50.0)
製造	▲7.1	▲16.6	▲61.5	▲69.2	▲76.9	▲78.5	▲35.7(▲61.5)
卸・小売	▲23.0	▲42.3	▲72.0	▲78.2	▲81.8	▲59.0	▲45.4(▲45.4)
サービス	△21.4	▲13.3	▲21.4	▲52.9	▲26.6	▲46.6	▲26.6(▲26.6)



【令和2年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.1(前月水準▲62.8)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。

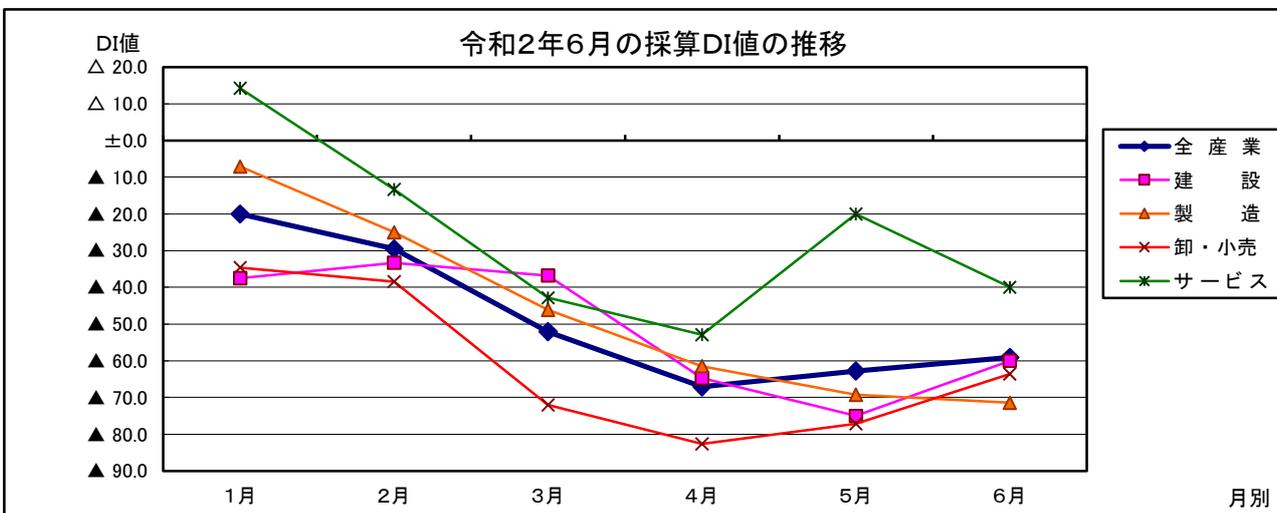
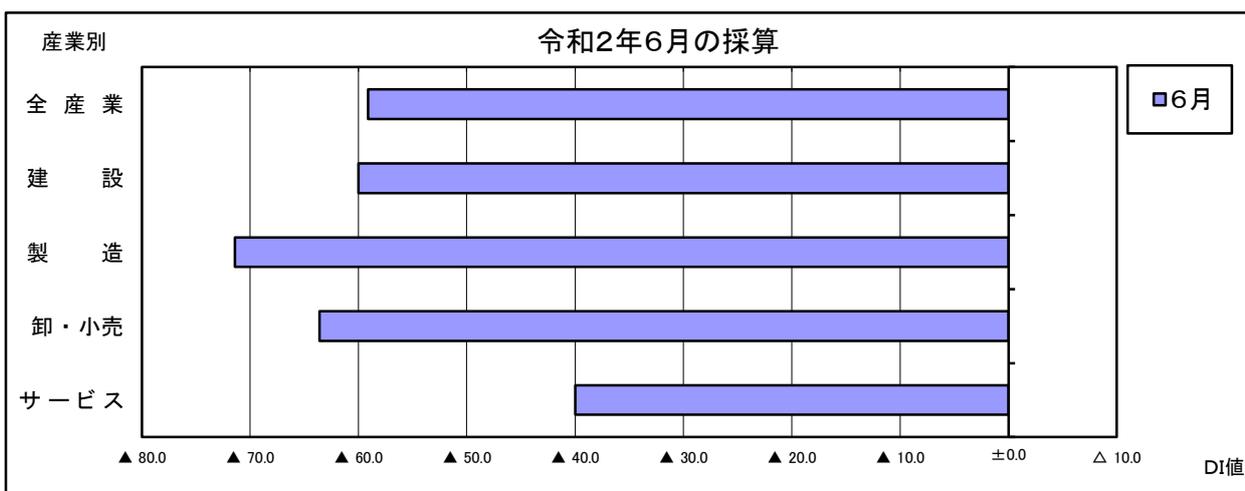
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲75.0)、卸小売業▲63.6(同▲77.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲20.0)、製造業▲71.4(同▲69.2)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲39.4(前月水準▲47.1)であり、マイナス幅が7.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.7(同▲61.5)、建設業▲30.0(同▲50.0)、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲59.0(同▲45.4)である。

令和2年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲20.0	▲29.5	▲52.1	▲67.1	▲62.8	▲59.1	▲39.4(▲47.1)
建設	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲64.7	▲75.0	▲60.0	▲30.0(▲50.0)
製造	▲7.1	▲25.0	▲46.1	▲61.5	▲69.2	▲71.4	▲35.7(▲61.5)
卸・小売	▲34.6	▲38.4	▲72.0	▲82.6	▲77.2	▲63.6	▲59.0(▲45.4)
サービス	△14.2	▲13.3	▲42.8	▲52.9	▲20.0	▲40.0	▲26.6(▲33.3)



【令和2年6月の仕入単価についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.6(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小した。

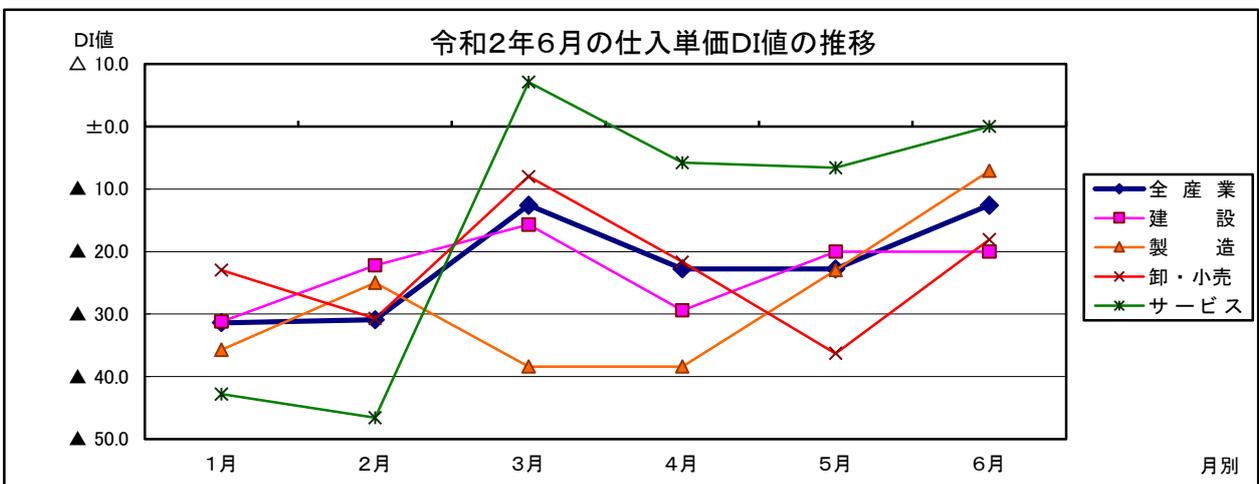
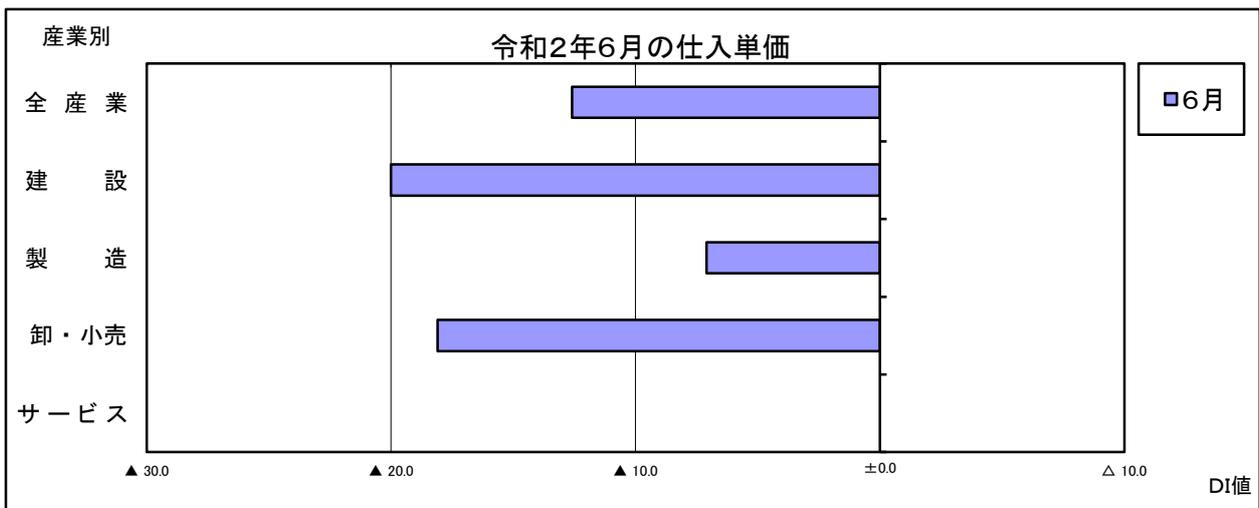
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲18.1(同▲36.3)、製造業▲7.1(同▲23.0)、サービス業±0.0(同▲6.6)である。変わらない業種は、建設業▲20.0(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が0.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲±0.0(同▲6.6)、製造業▲7.1(同▲7.6)である。変わらない見通しの業種は、建設業▲10.0(同▲10.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲31.8(同▲27.2)である。

令和2年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲31.4	▲30.9	▲12.6	▲22.8	▲22.8	▲12.6	▲14.0(▲14.2)
建設	▲31.2	▲22.2	▲15.7	▲29.4	▲20.0	▲20.0	▲10.0(▲10.0)
製造	▲35.7	▲25.0	▲38.4	▲38.4	▲23.0	▲7.1	▲7.1(▲7.6)
卸・小売	▲23.0	▲30.7	▲8.0	▲21.7	▲36.3	▲18.1	▲31.8(▲27.2)
サービス	▲42.8	▲46.6	△7.1	▲5.8	▲6.6	±0.0	±0.0(▲6.6)



【令和2年6月の従業員についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.4(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が9.9ポイント縮小した。

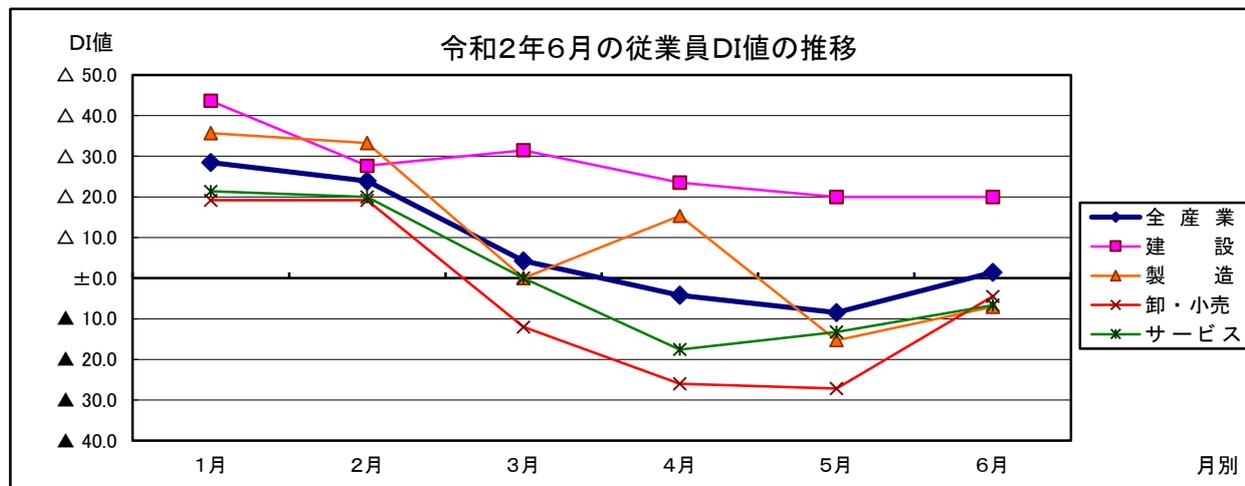
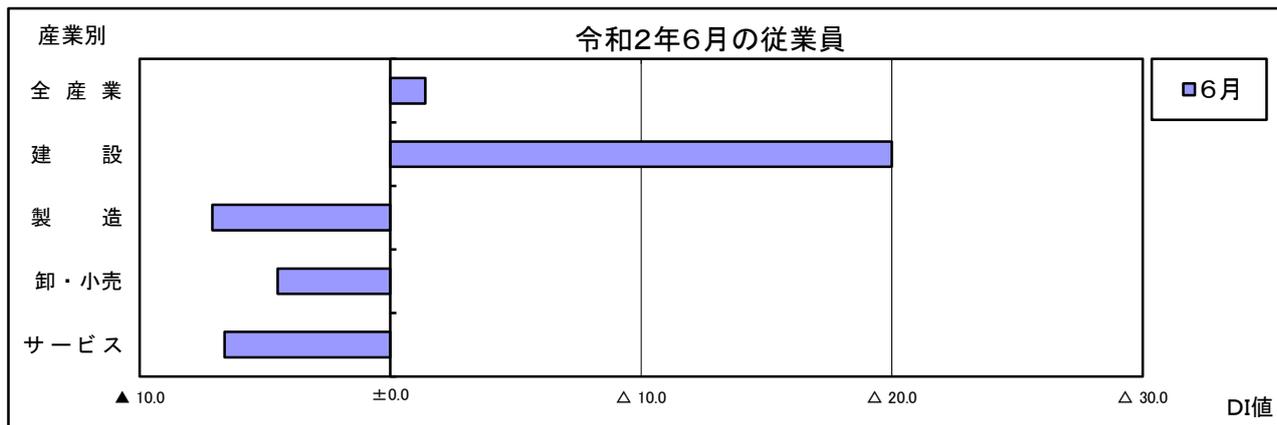
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲4.5(同▲27.2)、製造業▲7.1(同▲15.3)、サービス業▲6.6(同▲13.3)である。変らない業種は、建設業△20.0(同△20.0)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が7.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△4.5(同▲18.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲21.4(同▲38.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△15.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。

令和2年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△28.5	△23.9	△4.2	▲4.2	▲8.5	△1.4	±0.0(▲7.1)
建設	△43.7	△27.7	△31.5	△23.5	△20.0	△20.0	△15.0(△20.0)
製造	△35.7	△33.3	±0.0	△15.3	▲15.3	▲7.1	▲21.4(▲38.4)
卸・小売	△19.2	△19.2	▲12.0	▲26.0	▲27.2	▲4.5	△4.5(▲18.1)
サービス	△21.4	△20.0	±0.0	▲17.6	▲13.3	▲6.6	▲6.6(±0.0)



【令和2年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.5(前月水準▲41.4)となり、マイナス幅が11.9ポイント縮小した。

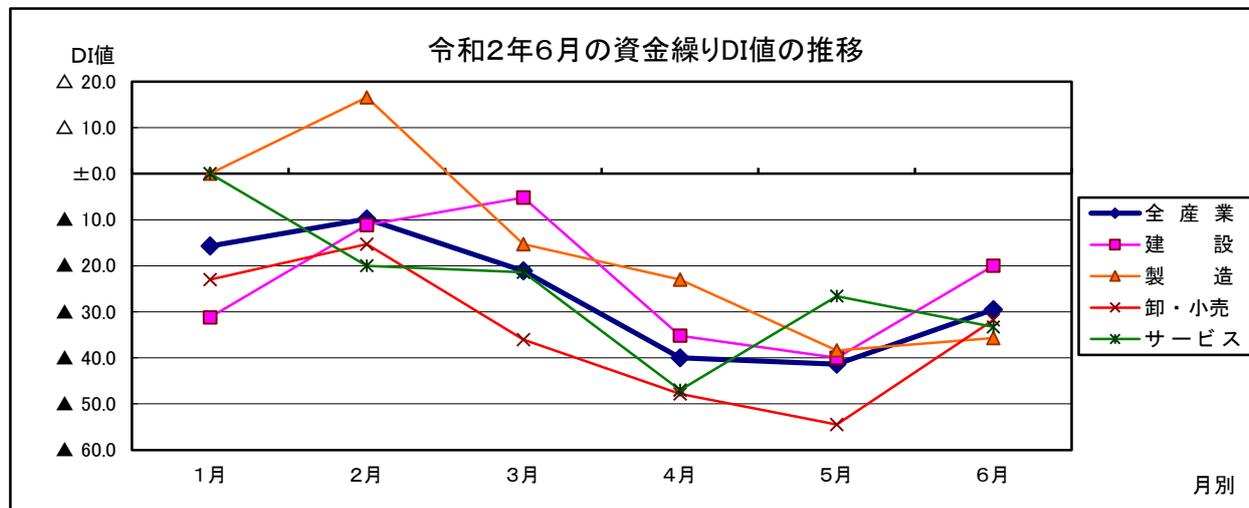
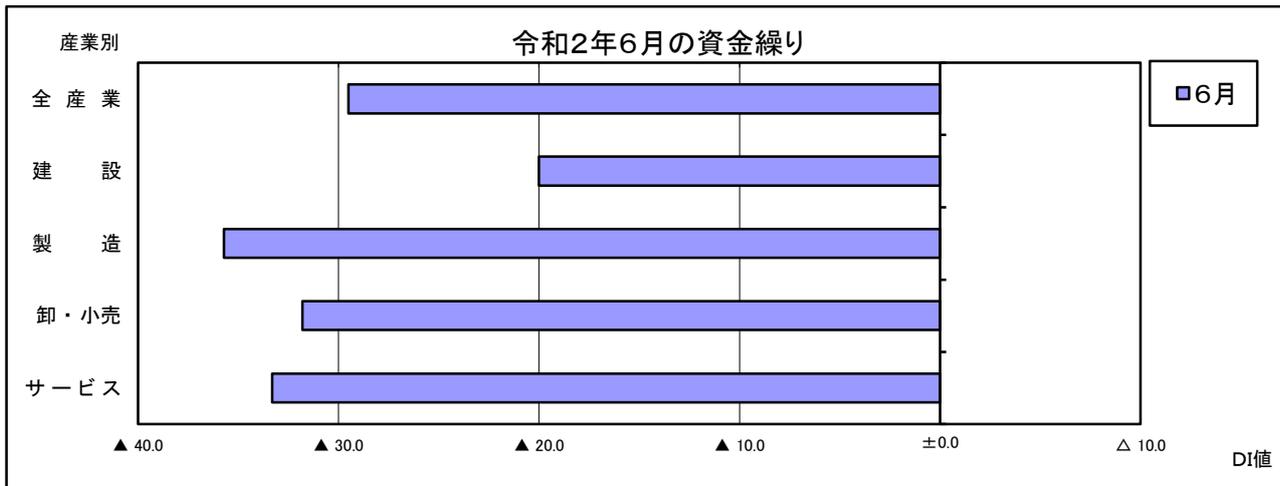
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.8(同▲54.5)、建設業▲20.0(同▲40.0)、製造業▲35.7(同▲38.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲33.3(同▲26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.9(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.5(同▲46.1)、建設業±0.0(同▲15.0)、卸小売業▲36.3(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲26.6)である。

令和2年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲15.7	▲9.8	▲21.1	▲40.0	▲41.4	▲29.5	▲23.9(▲34.2)
建設	▲31.2	▲11.1	▲5.2	▲35.2	▲40.0	▲20.0	±0.0(▲15.0)
製造	±0.0	△16.6	▲15.3	▲23.0	▲38.4	▲35.7	▲28.5(▲46.1)
卸・小売	▲23.0	▲15.3	▲36.0	▲47.8	▲54.5	▲31.8	▲36.3(▲50.0)
サービス	±0.0	▲20.0	▲21.4	▲47.0	▲26.6	▲33.3	▲33.3(▲26.6)



【令和2年6月の調査結果のポイント】

《全産業DIは2か月連続で改善。先行きも回復の見通したが、新型コロナウイルスの影響は長期にわたる予想》

6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.5(前月水準▲64.2)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲45.0(同▲70.0)、卸小売業▲63.6(同▲81.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲92.8(同▲69.2)、サービス業▲46.6(同▲26.6)である。

【建設業】からは、「働き方改革を進め、週休二日制を導入」(職別工事)、「新型コロナウイルスの影響を想定し、本業以外の業務を検討」(職別工事)、「働き方の意識が変わり、労働時間の削減が定着しそう」(土木建築工事)、「4、5月は中国製の仕入商品が入らなかったが、今は落ち着いた」(とび)、「テレワーク増加で家賃の高い都内から柏へ移り住む方が多いのか、空家畳工事が堅調」(畳工事請負・畳製造販売)、「自粛解除後、仕事量は回復したが元通りにはならず」(電気工事)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「借入の条件が良い」(産業用機械)、「自粛解除で仕事量が増える事に期待したいが、地域の経済活動は鈍く不安」(印刷)、「緊急事態宣言解除後も売上が元に戻らない。この2、3か月で戻らないとパート、正社員ともに休業、人員整理が必要となる状況」(自動車部品)、「営業自粛が年度後半の売上にどの程度影響するのか懸念」(機械・同部品)、「売上の減少幅は小さくなってきたが例年通りまでは戻らない。雇用調整助成金の申請開始」(酒類)、「6月は受注減となったが、少しずつ戻ってきている」(有機化学工業製品)、「改革・改善の目処が立たず、現状維持も危うい」(印刷)、「インバウンド需要が減少し、化粧品容器の受注が大幅減少」(プラスチック製品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「特別定額給付金の影響で布団、家電等高額商品の購入が増加。食品、日用品、肌着も好調だがお出かけ着、スーツは厳しい」(大型小売店)、「セールを前倒したこともあり衣料品、服飾雑貨は健闘。生活雑貨、コスメも好調。飲食は席の間引き、自粛ムードが残り厳しい」(各種商品小売)、「外出自粛により内食が増え食品の購入が増加」(水産物卸・小売)、「酒税改定に伴い果実酒が増税。コロナ禍の状況では価格転嫁しにくく見直しを望む」(食料・飲料卸売)、「アルコール、体温チェック機材等のコスト増。換気に伴う電気使用量も増加」(百貨店)、「小売業ゆえに経済活動、消費行動の停滞による売上減少が経営に大きく影響。しかし、社会的使命を果たすことも重要であり、コストはかかるが3密対策を講じながら営業。設備投資は中止、その他営業費を大幅削減」(百貨店)、「物販店では定期的な除菌・消毒に加え、袋の有料化で作業が増加。飲食店ではアクリル板等の対応で席の減数を抑えている」(各種商品小売)、「趣向品は我慢なのか単価が低く、売上はまだ望めない」(時計小売)、「緊急事態宣言解除後も売上戻らず。7月からのカフェ再開に期待！」(洋菓子店)、「やっと、通常に戻った感がある」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは「不動産業者は固定資産税の軽減が命」(不動産賃貸)、「政府の財政支援で予想より廃業・撤退は少ないが、景気の戻りが悪いと廃業も出る」(不動産賃貸・管理)、「反響、来店客数激減。家賃の値下げ交渉も。自粛の影響で賃貸・売買ともに取引減少」(不動産管理)、「入館者数、客単価、売上が若干だが戻りつつある」(公衆浴場)、「コロナ禍の影響で接待や宴会客がほとんどなく、屋の年配客も大きく減少」(日本料理)、「大企業の設備投資減少の影響が出ている」(ソフトウェア)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
6月	▲60.5	▲45.0	▲92.8	▲63.6	▲46.6
見通し	▲42.2	▲30.0	▲50.0	▲45.4	▲46.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 60.5	▲ 33.8	▲ 59.1	▲ 39.4	▲ 12.6	▲ 14.0	△ 1.4	±0.0
建設	▲ 60.0	▲ 25.0	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 10.0	△ 20.0	△ 15.0
製造	▲ 78.5	▲ 35.7	▲ 71.4	▲ 35.7	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 21.4
卸・小売	▲ 59.0	▲ 45.4	▲ 63.6	▲ 59.0	▲ 18.1	▲ 31.8	▲ 4.5	△ 4.5
サービス	▲ 46.6	▲ 26.6	▲ 40.0	▲ 26.6	±0.0	±0.0	▲ 6.6	▲ 6.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 60.5	▲ 42.2	▲ 29.5	▲ 23.9
建設	▲ 45.0	▲ 30.0	▲ 20.0	±0.0
製造	▲ 92.8	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 28.5
卸・小売	▲ 63.6	▲ 45.4	▲ 31.8	▲ 36.3
サービス	▲ 46.6	▲ 46.6	▲ 33.3	▲ 33.3

## 令和2年6月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.5に対し、「CCI-LOBO」が▲62.8で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.5に対し、「CCI-LOBO」が▲61.1で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲59.1に対し、「CCI-LOBO」が▲59.6で柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.6に対し、「CCI-LOBO」が▲16.8で柏の方がマイナス幅が4.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.4に対し、「CCI-LOBO」が▲2.1で柏の方がマイナス幅が3.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.5に対し、「CCI-LOBO」が▲36.0で柏の方がマイナス幅が6.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。

【令和2年6月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	働き方改革を勧め、週休二日制を導入する。	働き方改革	職別工事業
	新型コロナウイルス発生後、テレワーク増加で都内から柏へ移り住む方が多いのか空家量工事が堅調。	テレワークの影響	畳工事請負・畳製造販売業
	中国製の仕入商品が多く4、5月は商品が入らない事も多かったが、今は落ち着いている。	新型コロナウイルスの影響	とび業
	新型コロナウイルスの影響はほぼないが、1、2年後に影響がある可能性もある為、本業以外の業務を検討中。従業員も今年に入り退職をしたため、募集中。	業務拡大検討	職別工事業
	自粛解除後、仕事量は回復したが元通りにはならず。今後の見通し不明。	先行き不透明	電気工事業
「ピンチはチャンス」と受け止め、プラス思考で現状打破を模索中。働き方の意識が変わり、労働時間の削減が定着しそう。	働き方改革	一般土木建築工事業	
製造業	新型コロナウイルス対策（テレワーク、時差出勤、WEB会議等）は引き続き実施。	新型コロナウイルス対策	織物業
	自粛解除で仕事量が増える事に期待したいが、地域の経済活動は鈍く回復できるか不安である。	先行き不透明	印刷業
	新型コロナウイルス感染拡大による影響で、緊急事態宣言の解除後も売上がなかなか元に戻りそうにない。雇用は今のところ維持しているが、この2～3か月で元に戻らないと製造現場は在庫増、販売部門は手余りとなる為、パート、正社員ともに休業、人員整理が必要となる状況。	休業・人員整理	自動車付属品製造業
	緊急事態宣言中の営業自粛が年度後半の売上にどの程度影響するのか懸念している。	先行き不透明	機械・同部品製造業
	緊急事態宣言解除に伴う飲食店の自粛解禁等によって、売上は多少上向きとなってきた。ただし、まだ例年通りまでは戻らない。6月も各種会議等の中止やオンライン会議等は継続している。	売上回復傾向 雇用調整助成金	酒類製造業
	新型コロナウイルスの影響で6月は受注減となったが、少しずつ戻ってきている。	受注回復	有機化学工業製品製造業
	業種によるのか改革・改善の目処が立たず、現状維持も危うい。	業況悪化	印刷業
	新型コロナウイルスの影響でインバウンド需要が減少した事で、化粧品容器の受注が大幅減少の傾向。	化粧品容器受注減	プラスチック射出成形加工業
	借入の条件が良い。	借入条件良好	一般産業用機械・装置製造業
卸小売業	「安心・安全」確保のためのアルコール、体温チェック機材等のコスト増。換気に伴う電気使用量の増加。	新型コロナウイルス対策経費増加	百貨店
	特別定額給付金の影響で布団、家電等高額商品の購入が増え始めた。食品は前年より5%ほど好調。日用品や肌着も好調。一方で外出着、スーツ等は厳しい状況。	高価格商品の売上増加	大型小売店
	小売業ゆえに経済活動、消費行動の停滞による売上減少が経営に大きく影響。しかし、社会的使命を果たすことも重要であり、コストはかかるが3密対策を講じながら営業している。設備投資は中止、その他営業費を大幅削減。	売上減少 設備投資中止 冬ボーナス削減	百貨店
	衣料品、服飾雑貨についてはセールを前倒したこともあり健闘。生活雑貨、コスメも好調。しかし、飲食は席の間引きやディナータイムの利用自粛ムードが残っており厳しい状況。	衣料品・生活雑貨売上好調 飲食自粛ムード	各種商品小売業
	物販店では定期的な除菌・消毒に加え、袋の有料化で作業が増加。飲食店ではアクリル板等の対応で席の減数を抑えている。	プラスチック製買物袋有料化	各種商品小売業
	緊急事態宣言解除後も売上戻らず。7月からのカフェ再開に期待！	売上低迷	洋菓子店
	イベント自粛や時短営業の影響はあったが、外出自粛により内食が増えた分食品の購入が増加。経済の先行き不安の中で、消費者の節約志向が強まり、値引き・販促合戦による体力勝負になるのでは。	食品売上増加 消費者の節約傾向	水産物卸・小売業
	酒税法改定に伴い果実酒が増税になる。このコロナ禍の状況では価格転嫁しにくく、見直しを求む。	酒税法改定	食料・飲料卸売業
	やっと通常に戻った様子。	新型コロナウイルスの影響減少	洋菓子店
	4、5月と比較すると入館者数、客単価、売上が若干ではあるが戻りつつある。	客数・客単価・売上回復傾向	公衆浴場業
趣向品は我慢か、客単価が低く売上はしばらく望めない様子。	客単価減少	時計・眼鏡・光学機械小売業	
食品小売業の売上は良いが、飲食店は立ち行かなくなってきた。	売上好調	各種食料品小売業	
サービス業	コロナ禍の影響で接待や宴会客がほとんどなく、昼の年配客も大きく減少。	接待・宴会客減少 高齢客減少	日本料理
	過去に例のない政界的金融緩和の中、働き方改革と企業の新型コロナウイルスに対する経営仕方が割れた6月。頻繁に地震が起き、今後もあらゆる面において注意を。	注意継続	投資顧問
	新型コロナウイルスの影響で一般のお客様からの反響、来店客数ともに激減。売り急ぎのお客様からの売却・買取依頼は増加。家賃の値下げ交渉がでてきている。自粛の影響で賃貸・売買ともに取引は減少。	来店客・取引減少 家賃の値下げ交渉	不動産管理業
	不動産業者は固定資産税の軽減が命。	固定資産税の軽減	不動産賃貸業
	政府の財政支援で予想より廃業・撤退は少ないが、景気の戻りが悪い場合、廃業もあり得る。賃貸住宅需要は其中で底堅い。	新型コロナウイルスの影響	不動産賃貸・管理業
コロナ禍の影響は大きくなっている。大企業の設備投資減少の影響とみている。	設備投資減少の影響	ソフトウェア業	

# 令和2年6月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 60.5	 ▲ 45.0	 ▲ 92.8	 ▲ 63.6	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 62.8	 ▲ 35.0	 ▲ 72.6	 ▲ 60.4	 ▲ 73.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 60.5	 ▲ 60.0	 ▲ 78.5	 ▲ 59.0	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 61.1	 ▲ 36.5	 ▲ 71.5	 ▲ 53.5	 ▲ 73.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 59.1	 ▲ 60.0	 ▲ 71.4	 ▲ 63.6	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 59.6	 ▲ 30.5	 ▲ 69.4	 ▲ 56.8	 ▲ 71.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.6	 ▲ 20.0	 ▲ 7.1	 ▲ 18.1	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.8	 ▲ 27.6	 ▲ 12.7	 ▲ 17.8	 ▲ 13.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 1.4	 20.0	 ▲ 7.1	 ▲ 4.5	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 2.1	 22.8	 ▲ 20.0	 7.3	 ▲ 6.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 29.5	 ▲ 20.0	 ▲ 35.7	 ▲ 31.8	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 36.0	 ▲ 14.0	 ▲ 39.7	 ▲ 35.2	 ▲ 49.9

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：2020年6月15日～19日

調査対象：全国の335商工会議所が2,713企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、下げ止まりの兆しも、厳しい状況続く。先行きも慎重な見方は変わらず**

6月の全産業合計の業況DIは、▲62.8と、前月から+3.0ポイントの改善。緊急事態宣言の解除を受け、営業を再開した小売業・飲食業などで客足が戻りつつあるほか、中断していた公共工事に再開の動きが出始めるなど、一部で下げ止まりの兆しがみられる。一方で、依然として遠出を避ける消費者が多く、宿泊業をはじめとする観光関連では低調な動きが続く。また、製造業では、取引先の過剰在庫や生産調整に伴う受注減に加え、緊急事態宣言下の営業自粛によるビジネスチャンスの喪失など、前月に増して悪影響が拡大しているとの指摘も多く聞かれており、中小企業の景況感は持ち直しの兆しはみられるものの、厳しい状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲57.7(今月比+5.1ポイント)と改善を見込む。緊急経済対策の政策効果や消費者における

自粛ムードの緩和を背景に、夏季商戦や観光需要の拡大などへの期待感がうかがえる。一方、新型コロナウイルスの第二波・第三波への警戒感がある中、新たな生活様式に対応したビジネスモデルへの転換に迫られる企業や、サプライチェーン・生産活動への影響拡大を懸念する企業も多く、先行きに対して依然として慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業で悪化、建設業、卸売業、小売業、サービス業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

#### 【建設業】「緊急事態宣言の解除後、自治体からの公共工事の発注が開始している。今後、発注量の増加が見込まれるが、新型コロナウイルスの第二波などの影響も懸念される。見通しは慎重にならざるを得ない」(一般工事業、メーカーにおける建設資

材や住宅関連機器の生産体制が整い、納品遅れや欠品は徐々に解消してきている。一方で、消費者のマインドが低下しており、住宅の修繕やリフォームなどの工事で延期・中止を求められるケースも発生している」(建築工事業)

#### 【製造業】「新型コロナウイルス前の受注量には届かないものの、ストップしていた飲食業向け商品が動き始めた」(調味料製造業)、「取引先である大手メーカーの在庫が積み上がり、当社への発注がストップするなど、月を追うごとに受注状況が悪化している。年内いっぱいには受発注が停滞する恐れがあり、予想以上に影響が長期化する見込み」(金属製品製造業)

【卸売業】「新型コロナウイルスの影響が長引いていることで納入先のメーカーでは工場の稼働率が上がり、引き合いが鈍い」(繊維製品卸売業)、「緊急事態宣言の解除後から、小売業や飲食業向けの受注が徐々に回復してきている。今後、地元の旅館・ホテルの営業が再開されることから、観光客の増加を期待したい」(水産加工品卸売業)

【小売業】「営業を再開したものの、客足の戻りが鈍い。また、夏のボーナス商戦やお中元商戦も不透明であり、先行きが不安」(百貨店)、「外出自粛の反動による消費者の購買意欲の高まりや、特別定額給付金の効果もあり、売上が伸びている。ただし、これまでの落ち込みを取り戻すには至っていない」(衣料品小売業)

【サービス業】「消費者の外が増えており、来客数も新型コロナウイルス前の8割程度まで回復してきている」(飲食業)、「6月に集中する株主総会の中止が相次ぎ、宴会場利用が激減したほか、出張自粛などによるビジネス客の宿泊利用の低迷もあって、売上は前年比9.4%減と厳しい状況が続く」(宿泊業)

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲26.8	▲10.4	▲31.1	▲28.9	▲38.0	▲23.4
2月	▲32.6	▲13.0	▲41.5	▲37.5	▲39.5	▲28.6
3月	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲53.1	▲58.9	▲55.8
4月	▲60.4	▲29.3	▲63.2	▲66.7	▲64.0	▲71.2
5月	▲65.8	▲37.7	▲69.9	▲62.9	▲70.0	▲77.6
6月	▲62.8	▲35.0	▲72.6	▲61.6	▲60.4	▲73.4
見通し	▲57.7	▲38.7	▲64.4	▲58.3	▲57.9	▲62.7

# 柏の景気情報 (令和2年6月の調査結果のポイント)

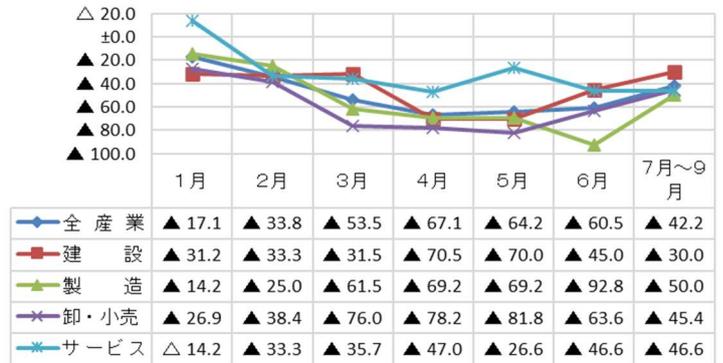
## ★調査結果のまとめ

調査期間：令和2年6月25日～7月10日 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング、回答数71件

### 全産業DIは2か月連続で改善。先行きも回復の見通しだが、新型コロナウイルスの影響は長期にわたる予想

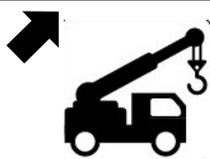
6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.5(前月水準▲64.2)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。  
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲45.0(同▲70.0)、卸小売業▲63.6(同▲81.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲92.8(同▲69.2)、サービス業▲46.6(同▲26.6)である。

柏の景気情報・産業DI



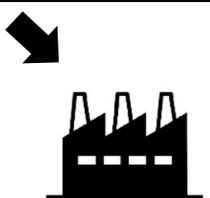
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



### 建設業

「働き方改革を進め、週休二日制を導入」(職別工事)、「新型コロナウイルスの影響を想定し、本業以外の業務を検討」(職別工事)、「働き方の意識が変わり、労働時間の削減が定着しそう」(土木建築工事)、「4、5月は中国製の仕入商品が入らなかったが、今は落ち着いた」(とび)、「テレワーク増加で家賃の高い都内から柏へ移り住む方が多いのか、空家畳工事が堅調」(畳工事請負・畳製造販売)、「自粛解除後、仕事量は回復したが元通りにはならず」(電気工事)



### 製造業

「借入の条件が良い」(産業用機械)、「自粛解除で仕事量が増える事に期待したいが、地域の経済活動は鈍く不安」(印刷)、「緊急事態宣言解除後も売上が元に戻りそうにない。この2、3か月で戻らないとパート、正社員ともに休業、人員整理が必要となる状況」(自動車部品)、「営業自粛が年度後半の売上にとどの程度影響するのか懸念」(機械・同部品)、「売上の減少幅は小さくなってきたが例年通りまでは戻らない。雇用調整助成金の申請開始」(酒類)、「6月は受注減となったが、少しずつ戻ってきている」(有機化学工業製品)、「改革・改善の目処が立たず、現状維持も危うい」(印刷)、「インバウンド需要が減少し、化粧品容器の受注が大幅減少」(プラスチック製品)



### 卸・小売業

「特別定額給付金の影響で布団、家電等高額商品の購入が増加。食品、日用品、肌着も好調だがお出かけ着、スーツは厳しい」(大型小売店)、「セールを前倒したこともあり衣料品、服飾雑貨は健闘。生活雑貨、コスメも好調。飲食は席の間引き、自粛ムードが残り厳しい」(各種商品小売)、「外出自粛により内食が増え食品の購入が増加」(水産物卸・小売)、「酒税改定に伴い果実酒が増税。コロナ禍の状況では価格転嫁しにくく見直しを望む」(食料・飲料卸売)、「アルコール、体温チェック機材等のコスト増。換気に伴う電気使用量も増加」(百貨店)、「小売業ゆえに経済活動、消費行動の停滞による売上減少が経営に大きく影響。しかし、社会的使命を果たすことも重要であり、コストはかかるが3密対策を講じながら営業。設備投資は中止、その他営業費を大幅削減」(百貨店)、「物販店では定期的な除菌・消毒に加え、袋の有料化で作業が増加。飲食店ではアクリル板等の対応で席の減数を抑えている」(各種商品小売)、「趣向品は我慢なのか単価が低く、売上はまだ望めない」(時計小売)、「緊急事態宣言解除後も売上戻らず。7月からのカフェ再開に期待！」(洋菓子店)、「やっと、通常に戻った感がある」(洋菓子店)



### サービス業

「不動産業者は固定資産税の軽減が命」(不動産賃貸)、「政府の財政支援で予想より廃業・撤退は少ないが、景気の戻りが悪いと廃業も出る」(不動産賃貸・管理)、「反響、来店客数激減。家賃の値下げ交渉も。自粛の影響で賃貸・売買ともに取引減少」(不動産管理)、「入館者数、客単価、売上が若干だが戻りつつある」(公衆浴場)、「コロナ禍の影響で接待や宴会客がほとんどなく、昼の年配客も大きく減少」(日本料理)、「大企業の設備投資減少の影響が出ている」(ソフトウェア)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲60.5に対し、「CCI-LOBO」が▲62.8で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。